



園だより

令和2年5月7日

平和台幼稚園

<http://www.okamoto-gakuen.com>

金次郎先生に学ぶ

五月晴れの清々しい頃となりましたが、コロナウイルス感染予防対策に余談を許せない状態です。引き続きご協力をお願いします。

さて、幼稚園正門横に二宮金次郎先生の石像があります。平和台幼稚園が40周年を迎えたときに建立しました。金次郎先生は神奈川県二宮町の比較的裕福な農家の長男として生まれましたが、両親が早くに亡くなり、また水害等で田畑をなくしています。叔父さんの家に住み農作業を手伝い、小さな弟たちの世話をしながら少しずつ経済力を付け失う以前よりも多くの田畑を持つことができました。その実践力と人間性の高さを目を付けた当時の小田原藩主大久保忠真侯ただぎねは関係地域の農村復興事業を金次郎先生に命じます。大変な苦労もありましたがその数およそ600村となり、明治時代より偉人に例えられる人物となりました。

その幼稚園の石像には子ども達に贈る三つのメッセージが込められています。ご存じの方もおられると思いますが、一つ目に本を読んでいる姿は勤勉を表しています。二つ目の薪を背負っている姿は勤労です。そして三つ目は右足を一步前に出している姿です。これが一番大切なこととされています。どんな困難にあっても諦めず堂々と胸を張って前に進んでいくことこそ大切なことで、一步踏み出す勇気を表しています。

1. 勤勉・・・一生懸命勉強しましょう
2. 勤労・・・一生懸命働きましょう
3. 勇気・・・一步踏み出す勇気を持ちましょう

子ども達にとっての勤勉、勤労は「幼稚園に来て友だちとたくさん遊びましょう」ということです。これからこの三つのメッセージを子ども達に伝えていきたいと思っています。

また金次郎先生は夜な夜な弟子達を集めては話をしていたそうですが、その中の一つに「たらいの水の例話」があります。大きなたらいに水をはってかき寄せると手前にあたり向こうに逃げていきます。反対に押しやれば向こうにあたってこちらにかえって来ます。この原理は物もお金も人も同じことで、欲を出してかき寄せることばかりしているといずれ遠くへ離れていく、出すことが先という教えです。このことは金次郎先生が農村復興事業をする中で体験したことでもあります。

必ずや園庭に子ども達の大きな笑い声が響き渡る日が必ず訪れます。今を皆様と耐えていきましょう。令和の今、もし金次郎先生がいたらどんな策をこうじたか？・・・

園長